

ハマフエフキの中間育成

木村 基文・宮城美加代*

1. 目的

平成13年度は養殖用の大型種苗(全長 50mm)10.4万尾を生産する。

2. 材料と方法

中間育成は種苗13.1万尾(19.4~39.7mm)を用いた。飼育は屋内50kl円形水槽2面、100kl円形水槽1面、および屋外30kl円形水槽1面で行った。

給餌は各水槽に自動給餌機2~4台を設置し、配合飼料を給餌した。給餌量は稚魚の魚体重を適宜測定し、一日あたり魚体重の3~15%量を給餌した。

底掃除は毎日行い、回収された斃死魚の計数を行うことで、生残数の推定を行った。

出荷時は手作業により全長50mm以下の個体と骨格異常魚の選別を行い、ベルトコンベアー式のフィッシュカウンターを用いて計数を行った。

3. 結果

平成13年度のハマフエフキの中間育成結果を表1に示した。

中間育成中に疾病の発生は見られず、中間育成は順調に進んだ。

最終取り上げ尾数は105,685尾(平均全長66.3mm)であり、歩留まりは80.6%であった(表1)。その結果、生産目標の10.4万尾を達成することができた。これまでに陸上水槽で行われたハマフエフキの中間育成の生残率は、65.8~91.0%であり、今回の中間育成結果は例年並みであった。

出荷時の計数は、これまで手作業で行ってきたが、今年度からベルトコンベアー式のフィッシュカウンターを導入した。その結果、一時間当たりの計数尾数は、手作業時の約2倍に当たる1万尾であり、時間の短縮ができた。

表1.平成13年度ハマフエフキ中間育成結果

收容月日	(月日)	5月25日~7月6日
水槽規模	(kl)	30kl×1面、50kl×2、100kl×1面
稚魚の收容数	(尾)	131,109
開始密度	(尾/kl)	570
飼育日数	(日)	31日~39日
取揚尾数	(尾)	105,685
生残率	(%)	80.6
取揚平均全長	(mm)	66.3
飼育水温	(°C)	23.1~30.3°C

4. 参考文献

木村基文・玉城英信・仲村伸次(1999):ハマフエフキの種苗生産.平成11年度沖縄県栽培漁業センター事業報告書,p13-18.

中田祐二・木村基文・本永文彦・仲村伸次・真境名真弓(2000):ハマフエフキの中間育成.平成12年度沖縄県栽培漁業センター事業報告書,p38.

* 執筆責任者